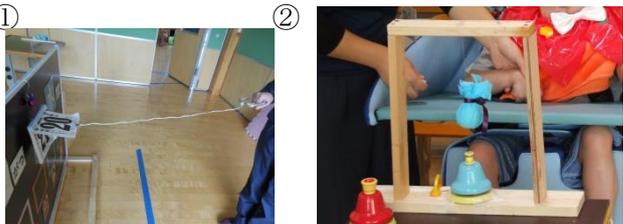


## 教材・支援機器活用実践事例

### 【日常生活に必要な基本的な動作の指導～物をつかむ・離す～】

	実施年度	平成30年度	
授業について	教科名等	自立活動	
	単元・題材名	せんせいといっしょにやってみよう！	
	授業における教師のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物を握ったり離したりする活動を繰り返し行うことで、スムーズに手指を動かす力を育てる。</li> <li>・「ぎゅー」や「ぱっ」の言葉掛けと同時に一緒に握ったり離したりすることで、音声と動きを結び付けていく。</li> <li>・できる動きを生かし活動を行うことで、できたことへの喜びを感じ、成功体験を積み重ねていく。</li> </ul>	
	授業における子どもの目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぎゅー」や「ぱっ」の言葉掛けや教師の動きを手掛かりに、物を握ったり離したりすることができる。</li> <li>・握ったり離したりする動きによって、カレンダーが破れたことやベル・ハーモニーが鳴ったことに気付くことができる。</li> </ul>	
子どもについて	学校・学級・学年	特別支援学校 小学部	
	対象の障がい	病弱、肢体不自由、知的障がい	
	授業形態	個別学習	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<p>聴覚優位の児童であり、破裂音や繰り返し言葉を好み、笑顔が見られる。手の動きに関して、不随意運動が見られ指先の動きがぎこちなく、物を握ったり離したりする動作やつまむ動作を苦手としている。また、様々な物に触れる等の活動経験が少ない。</p>	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	「ぎゅー」「ぱっ」でやってみよう！	
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・握りやすい輪や委員会活動でも使用しているペットボトルのキャップを握る物とすることにより、握る離す動きを身に付けられるようにする。</li> <li>・鈴やベル・ハーモニーを使用することで、本児の動きでカレンダーが破れ、鈴やベルが鳴ったことに気が付けるようにする。</li> </ul>	
授業における支援・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぎゅー」や「ぱっ」の言葉掛けと同時に一緒に手を閉じたり、開いたりすることで握る離す動きを身に付けるとともに、音声と動きを結び付けていけるようにする。</li> <li>・カレンダーを破ったりベルを鳴らしたりすることができた時は、「ぎゅー上手だったね」等の言葉で伝えたり、頭をなでる等の身体を通して称賛したりすることで、できたという実感が得られるようにする。</li> </ul>	
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を始めたころは「ぎゅー」の言葉掛けで離してしまうことがあったが、活動を繰り返し行ったことで、物を掴んだり、握り続けたりする様子が見られるようになってきた。</li> <li>・「ぱっ」の言葉掛けで物を離すことを促しても、響きが楽しくて体に力が入り物を離せないことが多かった。「ぱっ」ではなく「ばあー」の言葉掛けに変えて活動を行うと、以前に比べ体に力が入ることも少なくなり、言葉掛けと教師の動きを手掛かりに物を離すことができるようになってきた。</li> <li>・輪やペットボトルのキャップを離し、鈴やベル・ハーモニーが鳴ると笑顔が見られるようになってきた。しかし、できたことを実感して笑っているのか鈴やベル・ハーモニーの音で笑っているのか分からないため、検証が必要である。</li> </ul>	